

にじだより

NIJIDAYORI

vol.

16

2022.1



- ▶ 就労移行支援訓練利用者的一天
- ▶ 管理栄養士より（調理訓練）
- ▶ にじOBのお話

謹んで新春をお祝い申し上げます

皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

旧年中は障害者支援施設「にじ」に、温かいご支援とご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。長引く新型コロナウイルス対策に、面会・外出・外泊など多くの制限に大変ご迷惑をおかけいたしました。

さて、去年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、たくさんの勇気と感動をもらいました。「多様性」や「逆境に立ち向かう力」に清々しさを感じることができました。

「にじ」利用者みなさまも、目標に向かって確実に一歩ずつ前進していらっしゃいます。今年の干支は、壬寅（みずのえとら）年です。厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となる年だそうです。私たちも当センターの桜並木のつぼみに思いをはせ、みなさまが安心安全に明るく毎日を過ごすことができますよう、努力してまいります。

新しい年が皆様にとりまして、希望に満ちた幸せな年になりますよう、祈念しております。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

障害者支援施設にじ

施設長 古本節子





就労移行訓練のご紹介



にじでは、社会復帰に向けたさまざまな訓練をおこなっています。

日々、前向きに訓練に取り組んでいる姿を紹介します。

【朝礼】 毎朝9：00、朝礼が始まります。

司会担当者の進行で、作業スケジュールの確認、健康状態の確認をおこないます。



朝礼では心を落ち着かせるために
初めに瞑想を行います。



今日の予定をひとりずつ発表します。



予定はホワイトボードで確認します。

【訓練補助】

集団でのスクワット訓練の準備を行います。椅子のセッティングや、訓練終了後片付けをおこないます。



配置図を見ながら、
スムーズに作業できるように
工夫しています。

【施設管理】

施設内に設置している備品の確認・補充、清掃作業を定期的におこなっています。

加えてセンター内の観葉植物の管理もおこなっています。



備品管理、ペーパータオル等の在庫チェック



2人ペアになり協力し合ってコミュニケーションをとりながらおこないます。確認終了後は
チェック表も忘れずに記入します。



植物管理



訓練備品の拭き上げ

【事務作業、勉強会にむけての準備】



施設内掲示物作成も得意です
(オーダーに合わせておこないます)

履歴書の書き方、面接の仕方、自己の障がいの整理などについて勉強会をおこなっています。

自身の障がいや訓練してきたこと、仕事をするうえで配慮していただきたいことを伝える練習です。

【スポーツ訓練、アクティビティ】 就労訓練以外にも体づくり等もおこなっています。



バイクトレーニング



スポーツ訓練



革工芸での作品作り



ステキな作品が出来上がります。

【終礼】 今日1日の作業の確認や体調確認を行い、訓練終了です。



職業評価や施設外実習、退所された方々との
情報交換会もおこなっています。
社会復帰に向けて、一生懸命がんばっています。

管理栄養士より～調理訓練～

にじでは社会復帰のリハーサルとして調理訓練をおこなっています。

調理訓練は通常2～3人の利用者の方に対して作業療法士と管理栄養士が協働でおこなっていますが、コロナ禍において感染防止対策で現在はマンツーマンでおこなっています。

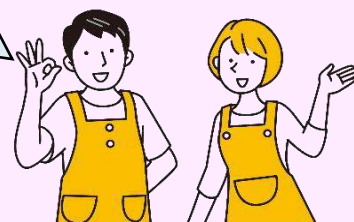
流れとしては評価調理訓練、実用調理訓練、料理教室と3つのステップでおこないます。

まず評価調理訓練では、動作や機能面での評価をおこないます。その後実用調理訓練で、昼食の献立作り、買物、調理、片づけまでの一連の流れをおこないます。料理教室は退所が近づいた頃、3日間にわたり昼食を作ります。片手が不自由な方でもできる方法をアドバイスしたり、既製品も取り入れながらの簡単メニューの紹介もおこないます。

調理訓練の中では退所されてからの食生活が乱れないように栄養バランスや味付けについての話もしています。食事制限が必要な方には、病態に応じた栄養指導もおこなっています。利用者の方からは「久しぶりに料理を作りました」と喜んでいただいた方や、「退所後の調理が不安だったけど、家に帰る前に練習ができてよかった」とのお言葉をいただき嬉しく思いました。



片手でも調理をしやすくするために
まな板にくぎを刺すなど、一人でも
できる事を増やす工夫を提案しています。



就労移行支援0Bのお話

現在、私達と一緒に働く、にじの元利用者のAさんにお話をうかがいました。

Aさんは、2017年に仕事に向かう途中に、急に腕と足が動かなくなり、ドクターヘリで搬送される中、意識がなくなったそうです。被殻出血を起こし手術もおこないましたが、意識が戻ったのは数日後で、自分は死ぬのかなと思っていたそうです。その後リハビリをするために回復期病院に転院しましたが、麻痺は治らないだと絶望し、こっそりと泣いていたそうです。しかし、訓練をおこなっていく中、少しずつ前向きに考えることができるようになり、「麻痺はあるけどこの体でがんばっていこう」と思えるようになっていったそうです。その中、これから先を考えた時、仕事がしたい、自動車の運転を再開したいといった目標ができ、にじを紹介され入所となりました。

にじでは3年間、自立訓練と就労移行支援の訓練を実施しました。目標を持ち、それに向かって入所当初からがんばれることができたそうですが、それも同じように毎日がんばっている仲間がいたからと振り返ります。仕事はどうか？と聞くと、「4月の時は初々しい新人の気持ちで始めました（笑）色々な心配があったけど、これまでお世話になり自分のことをよく知ってくれているスタッフに交じっての仕事となったので、すぐに慣れていくことができました」とおっしゃっていました。

業務内容としては

- ・訓練プログラム担当・就労移行支援利用者の指導や見守り・書類作成など
- ・事務補助（在庫チェック、事務用品補充等）・環境整理などをおこなっています。

まだ仕事の内容には満足しておらず、仕事量を増やし、仕事の質も上げていきたいと毎日意欲的に過ごしていらっやいます。また、就労と同時にひとり暮らしをはじめたAさんは日常生活では毎日食事を作り、お弁当も手作りです。カット野菜や冷凍食材等を活用し調理をしています。気分転換は部屋でゆっくりと大画面テレビで映画を観ることだそうです。

「突然の病気で本当に悲しんだ時期もあったけど、働くことができるようになり充実した毎日です」と笑顔のAさん。にじのスタッフとして笑顔でがんばるAさんの姿に私たちが元気と力をもらっています。



朝早く出勤し、コーヒーを飲むことが一日がんばれる秘訣です



仕事となると顔つきが変わります！



【ご相談の対象となる方】

- 18～65歳くらいまでの方
- 集団生活ができる方
- おおむねトイレが自立されている方
- 障害者手帳をお持ちの方、または申請予定の方
- 常時医療行為が必要のない方
- （手帳をお持ちでない方もお気軽にお問合せください）

ご相談・ご質問
お待ちしております！
担当 小野



社会福祉法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター

障害者支援施設 にじ （機能訓練・生活訓練・就労移行支援・施設入所支援）



〒874-8611 大分県別府市鶴見1026-10 TEL: 0977-67-1716 ホームページ: <https://brc.or.jp/>